

IoT導入による円滑なコミュニケーション 及び品質、作業性向上のデータ取得事業

人の力に頼った工程からの脱却へ

ゴムの加工、製造、販売のほか、ベルトのエンドレスなどの工事を主力事業とする株式会社白石ゴム製作所。ゴム製品に限らず、自走式農業散布ラジコンボート「ラジボー」など、さまざまな製品開発も行っている。近年では3D CADによるモデリングから3Dプリンターでの模型の制作を行い、テロ対策の車両侵入阻止柵「ヘラクレス」の開発も行った。同製品は可動式の車両進入防止柵となっているため、今後、大規模なイベントなどでの活用が期待される。

同社は1階が工場、2階が事務所となっており、今まで工場と事務所の連絡のやりとりは対面で行っていた。そのため、連絡がある度に事務所と工場との行き来を行っていた。また、ゴム製品製造機械の操作はスイッチを物理的に押す必要があり、スイッチを押すための社員の出勤も必要だった。工場にはインターネット環境が整っておらず、ネットワークを経由したやりとりなどを行うこともできなかった。

IoT導入でスムーズなコミュニケーションへ

本事業へは、令和3年度における札幌市の事業により、ITコーディネーターからIoT導入に向けた支援を受けたことがきっかけで申請したと同社の白井さん。この支援でのアドバイスで工場にインターネット環境を整備し、各所にモニター付きスマートディスプレイを導入。これによって、対面しなくとも円滑なコミュニケーションを図れるようになった。

インターネット環境が整ったことで、今まで人力で操作していた機械のスイッチ類も遠隔操作が可能となった。既製品では仕様合わなかったため、一部カスタマイズを施したが、自宅にしながらスマートフォンでスイッチ操作できるようになったことで、従業員からの評判も上々だ。

現在は今後の生産工程管理強化を視野に入れる。専務の白井さんは「高度なシステムを構築したわけではないが、業務が円滑化し、生産性が向上した」と話す。本事業で整備された体制により、より良い製品が生まれることだろう。

企業の声



専務取締役
白井 佑介

今後は音声による 機械操作を視野に

今回の補助金により、基本的なIoTの体制が整備できました。今後は音声による機械操作などにも展開していきたいです。



作業場間の連絡などはスマートモニターで行えるようになった



タブレット及びアプリを使用したタスク、時間の管理



外部からのリアルタイム温度管理とログの取得も可能に

北海道ならではの「ものづくり」を

北海道ならではのものづくりを目指して、一社では難しい案件に関しても関連企業や研究機関と協力して問題解決に取り組んでいる。

株式会社白石ゴム製作所

札幌市白石区北郷4条4丁目20-17
TEL 011-872-3771
<http://www.rubber.co.jp/>

設立 昭和52年1月
従業員数 18名
代表者 千葉 武雄

